

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Japanese Passive Sentences with an Inanimate Subject and a Ni-Marked Agent Phrase : Corpus-Based Study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-12-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 藝, LI, Yi メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2074

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



非情物主格・行為者ニ標示受動文について

——コーパス上の実例に基づく——考察——

李 藝

1. はじめに

現代日本語の受動文は、一般的に有情者が主格である場合は旧主語をニで標示し、非情物主格の場合は旧主語をニヨッテで標示する(金水(1991)¹ など)。一方、少数ではあるが、非情物主格・行為者ニ標示のかたちをしている受動文²もある。

本稿は主節における非情物主格・行為者ニ標示の受動文を対象に考察する。具体的には、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言を使用し、非情物主格・行為者ニ標示受動文の例を収集した³。この種の受動文について、

¹具体的には、金水(1991)は受動文の意味的役割の分布を以下のようにまとめている。

	主格	旧主語表示
a	〈非人格的〉	(なし)
b	〈非人格的〉	〈非人格的〉ニ
c	〈非人格的〉	〈人格的〉 / 〈非人格的〉ニヨッテ
d*	〈非人格的〉	〈人格的〉ニ
e	〈人格的〉	〈人格的〉ニ
f*	〈人格的〉	〈人格的〉 / 〈非人格的〉ニヨッテ

「aは、極めて所動詞表現に近いもので、叙景文に用いられたものの多くはこの類型であった。fが不通であるという判断は、ニヨッテ受身が常に中立的な解釈を要求するという観察による。」と述べられている。

²非情物主格・行為者ニ標示受動文の分類は、川村(2012)によって提案されているものが現在でも最も有力であろう。川村(2012: 69)は非情物主格・行為者ニ標示の受動文を擬人化タイプ、「潜在的受影者」タイプ、「発生状況描写」タイプ、「属性叙述受動文」タイプ、行為者不特定タイプの五種類に分類している。

³具体的な用例収集方法について、まず下記の検索条件で検索を行った。

長単位検索：

- ・キー：語彙素が「れる」 AND 品詞の小分類が助動詞
- ・キー：語彙素が「られる」 AND 品詞の小分類が助動詞

先行研究を踏まえる上で、コーパス上の非情物主格・行為者ニ標示受動文について分析し、できる限り全面的に非情物主格・行為者ニ標示受動文を記述し、その成立条件を議論していきたい。

2. 先行研究

2.1 属性叙述受動文と潜在受影者に関する先行研究

非情物主格・行為者ニ標示受動文、特に行為者が有情者であるニ標示受動文の成立条件について、属性叙述説と潜在受影者説が有力な説として挙げられる。

益岡(1991)は「潜在的受影者」という概念を提唱し、受影受動文⁴の場合、非情物主語であっても「顕在的な受影者は持たないものの、これらの事象から影響を受ける潜在的な受影者は想定される」と述べ、「潜在受影者」を「受影受動文の表面には現れないけれども、その受動文が叙述している事象から何らかの影響を受ける存在」と定義した。例(1)はこの説明にあたる。また、例(2)については主題名詞句の特定の属性を叙述しているため、行為者ニ標示が許容されると益岡(1987: 190)は解釈している。

(1) あの町は日本軍に破壊された。 (益岡 1987: 185)

(2) この論文は、チョムスキーに数回引用された。 (益岡 1987: 190)

益岡(1982)は日本語受動文の中に「属性叙述受動文」という新たな一類を立て、受影性がないとしている。しかし、のちに、属性叙述受動文に受影性を認める研究も現れ、その流れが大きく二つある。天野(2001)と坪井(2002)がその代表である。

天野(2001)は非情物主語のニ受動文の成立を一貫して説明することを試み、属性叙述受動文も潜在的受影者の想定が必要であり、その想定のみやすさが許容度を左右すると主張している。受影受動文・属性叙述受動文は潜在的受影者の意味に関して連続的であると考えべきであり、潜在的受影者を想定しやすい手がかりを持つものほど、非情物ニ受身文の許容度は高くなると述べている。

・前方共起 1: キーから 2 語 キーと結合して表示

語彙素が「に」 AND 品詞の小分類が助詞-格助詞

無関係なデータを手作業で取り除いて、非情物主語・行為者ニ標示の受動文を集めた。

なお、検索を行う際に文体種類や刊行年に制限を設けていない。

⁴「受影受動文とは、対応する能動文のガ格以外の或る名詞句が、叙述されている出来事の結果として心理的或いは物理的影響を受ける、ということを示すために、その名詞句をガ格に昇格することによって得られる受動文のことである。」(益岡(1987: 184))

坪井(2002)は「非情物主語+有情者ニ格名詞句」という組み合わせの成立条件について議論を展開している。主語が特徴づけを受けている非情のニ受身文を、属性叙述性という特殊な条件によって容認可能になっているものとして捉えるのではなく、通常受身との連続性の下に見るべきだと述べている。受身文の主語の変化というものを広く取れば、属性叙述受身文に見られる主語の特徴づけもその中に含まれうると主張している。

一方、和栗(2005)は天野(2001)、坪井(2002)と異なる論点を示し、属性叙述受動文に「受影性」を認めない。氏は属性叙述受動文が次の三点を満たすべきだと再定義している。一、ある対象の属性を叙述することをめざして非主語名詞句を昇格させることを動機とする。二、対応する能動文のガ格項が「ニ」で表示される。三、主語に立つモノに対する受影性が認められない。和栗(2005)に認められる属性受動文は<選択系>(茶系飲料は、年齢性別に関わらず多くの人に選ばれている)と、<評価系>(この授業は、文系の学生に敬遠されている)の二種類のみである。

また、その後、潜在受影者説の精密化を図ろうとする武田(2014)がある。武田(2014)は潜在的受影者には二つのタイプがあるということを提唱し、「バーミヤンの石仏がタリバンに破壊された」のような非情物ニ受動文における受影者は、事態発生以前からバーミヤンの石仏に関連がある人物、石仏に興味・関心を抱く人物ではなく、この文の聞き手一般と考える解釈を提示した。このタイプの文は特定の受影者が想定できない事態について敢えて非情物主語ニ受身文を用い、潜在的受影者を暗示することによって、「この事態は万人が受影者の立場に立ち、万人が皆衝撃を受けてしかるべき事態なのだ」という主張を述べている。

これらの先行研究では属性叙述受動文に受影性を認めるか否かと、潜在受影者という概念の指示範囲をめぐって、議論が行われてきた。二つの課題が深く関わり合う面もあり、天野(2001)と武田(2014)は両者を関連付けて検討している。本稿は非情物主格・行為者ニ標示受動文を議論する際も、潜在受影者という概念の指示範囲の規定を一つの目標とする。

2.2 受動文と共感度の階層性に関する先行研究

久野(1978)はEmpathy(共感度:話し手が文中のどの要素に<視点>を近寄せるかの度合いである)という概念を提唱し、次のような共感度の序列⁵を提

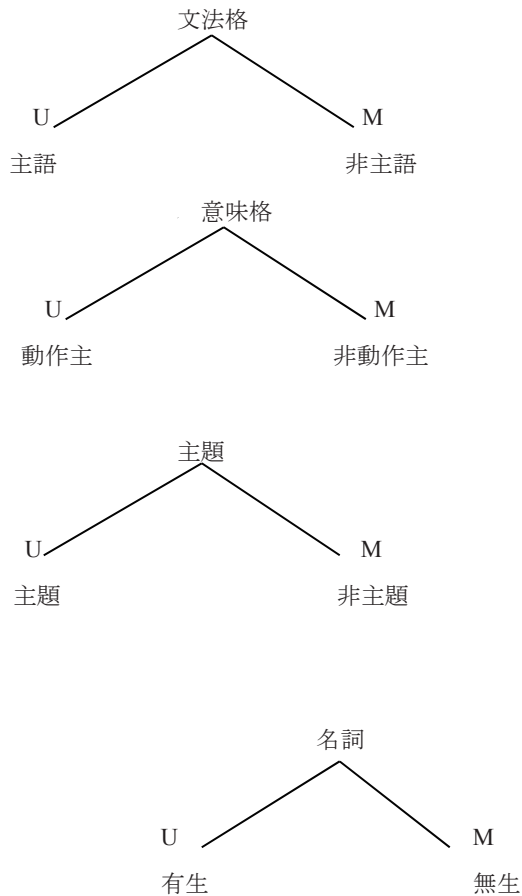
⁵久野(1978:169)は「一般的に言って、話し手は、主語寄りの視点を取ることが一番容易である。目的語寄りの視点をとることは、主語寄りの視点を取るのより困難である。受身文の旧主語(対応する能動文の主語)寄りの視点を取るのは、最も困難である。」と述べている。

示している。

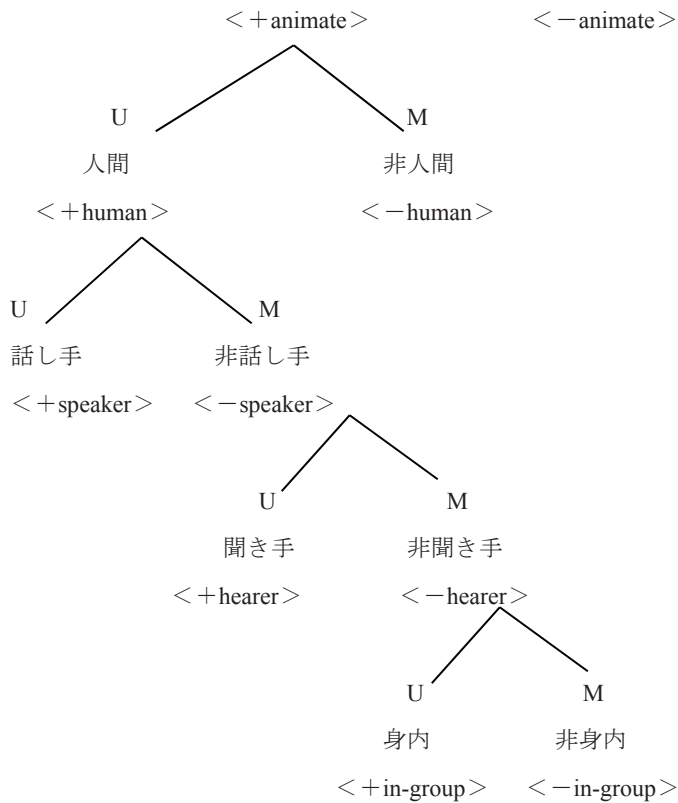
E(主語)>E(目的語)>E(受身文の旧主語) (久野(1978:169))

更に, Kuno(1987, 2004)⁶において, 共感度階層性原理について再度議論を広げている。

奥津(1983)は『枕草子』『徒然草』を中心に多角的に受身文の構造について分析を行なっている。同論文は, 久野(1978)共感度階層性原理が, 形式的な記述ではできない受身文の問題点の解明に極めて有効だと述べているうえ, 奥津(1983:72)は<視点>の有標性に関して下記のとおり, 序列の仮説を立てている。(Uは無標, Mは有標を示す)。



⁶ Kuno(2004:316)は共感度階層性原理について次のように総括にまとめている。文中の名詞句の x 指示対象に対する話し手の自己同一視化を共感 (Empathy) と呼び, その度合, 即ち共感度を E(x) で表わす。共感度は, 値 0 (客観描写) から値 1 (完全な自己同一視化) までの連続体である。共感度の階層は具体的に対称詞の共感度階層, 表層構造の共感度階層, 主題の共感度階層, 発話行為の共感度階層, 有生性の共感度階層, 他動性の共感度階層, 共感の一貫性, 談話法違反における有標性原則がある。



この序列の仮説は Kuno(1987, 2004)の中の Humanness Empathy Hierarchy : E(human) > E(non-human animate) > E(inanimate)と一致している。

また、奥津(1983)は、非情の受身は有標の無生名詞という、話し手にとって疎遠なものをあえて主語の位置に引き上げるものにとらえ、1. <動作主>が不特定多数、あるいは人一般の場合、2. <動作主>は特定の人物であるはずだが、それが誰か不明の場合、3. 形の上では受身であるが、自動詞相当の場合において、無生の<受動者>は主語の位置を占めると述べている。

Kuno(1990)では、行為者が不特定多数の場合は“faceless human beings”であるため、有情性を十分に果たすことができないとし、行為者が不定の場合も同様に Humanness Empathy Hierarchy が効かなくなると論じられている。

以上は非情物主格・行為者ニ標示受動文の成立と関係する共感度の階層性についての主な先行研究を顧みた。各々の説明は相通じる部分も多く、基本的に当を得ていると言えよう。

3. 本稿の立場

以上は非情物主格・行為者ニ標示受動文の成立を説明する際に有力な議論について検討してみた。潜在受影者説、属性叙述説、共感度階層性原理はそれぞれ適切な説明であると同時に、各自の守備範囲が歴然と異なる。行為者が「ニ」で標記されるという共通の形を取るため、何らかの共通性があるはずである。この考え方を手がかりに、本稿は非情物主格・行為者ニ標示受動文の成立について、諸先行研究を踏まえたうえで、なるべく統一した説明を検討していきたい。

いままで、議論的が属性叙述受動文に受影性を認めるか否かに絞られる場合、話者自身の関与の仕方についてあまり注目されていない。言うまでもないが、受動文は話者がどこにカメラを置いて、出来事を描写しているかの問題に大きく関わっている。有情物主格の受動文において、有情物主格は受影者であり、話者の共感の寄り所でもある。それに対して、非情物主格・行為者ニ標示受動文では表に出ている受影者はないが、非情物主格は依然として話者の共感の寄り所である。非情物主格・行為者ニ標示受動文の成立について議論する場合は、話者という要素を検討する必要がある。

本稿では、話者自身も非情物主格・行為者ニ標示受動文の潜在受影者になれることを主張する。特に武田(2014)に挙げられる「バーミヤンの石仏がタリバンに破壊された」のような受動文において、話者自身が潜在受影者であると考え。非情物主格・行為者ニ標示受動文の成立について、話者の関与がキーワードとなる。先行研究を踏まえて、本稿は以下の仮説を立て、検討していく。

- 一. 広い意味での物の持主が想定される場合は、持主が潜在的受影者となり、行為者ニ標示のほうが自然である。
- 二. 持主が想定されず、かつ行為者がニで標示される場合の潜在的受影者は、話者自身である。
- 三. いわゆる属性叙述受動文と叙景文の場合は、話者が物理的あるいは心理的影響を受けないが、話者が積極的に非情物主格寄りの視点を取るため、話者の関与度が高い。

次節から現代日本語書き言葉均衡コーパス上の実例に基づき、まず非情物主格・行為者ニ標示受動文の使用実態を観察していく。

4. 行為者ニ格かつ場所・到着点ニ格を兼ねる受動文

ここでまず取り上げたいのは行為者ニ格と場所・到着点ニ格を兼ねるタイプである。下記の例に示されているように、ニ格で標示される行為者が場所、あるいは到着点でもある非情物主語の受動文が多く存在する。

- (3) ところで北部ベトナムの海洋文化，漁撈文化は結局，ドンソン農業文化によって吸収されてしまうが，中部ベトナムではこの漁撈文化はチャム人の文化に受け継がれる。（『もっと知りたいベトナム』）
- (4) どうしても洗いきれないオイルが肌に残留し，それが肌に吸い込まれてしまいます。（Yahoo!知恵袋）
- (5) 四十七年度から，がん特別研究費は科学研究費に吸収された。（『科学技術白書 昭和52年版』）
- (6) そして終日，校長先生や先生方は落ち着きのない様子で，学校全体が，せわしい雰囲気に包まれていました。（『心に残るとっておきの話』）
- (7) 個々人には宇宙の見方にも個性があり，その個性が脳波に反映されているのである。（『気功入門』）
- (8) このため，導体の静電誘導と同様に，不導体は帯電体に引きよせられる。（『高等学校 物理 I』）

例(3)を能動態にすれば、「チャム人の文化が漁撈文化を受け継ぐ」となり、「チャム人の文化」が「行為者」かつ「場所」である。「漁撈文化」は「チャム人の文化」の内部に存在するようになる。例(4) - (6)も、「それ自体に {吸い込む／吸収する／包む}」と言える場所ニ格である。このように、非情物主語が動作を受けた結果、行為者の内部に存在するようになった。

また、例(7)は「脳波がその個性を脳波自体に反映する」となり、「脳波」は行為者項であると同時に場所ニ格でもある。例(8)の能動態は「帯電体は不導体を帯電体にひきよせる」と解釈することができ、「帯電体」は「行為者」であり、「到着点」でもある。

このように、非情物主格受動文における、ニ格で標示される行為者の例のなかには、行為者かつ場所、あるいは、行為者かつ到着点に該当するものがかなり多い。式にすれば能動文と次のような対応関係を成す⁷。

⁷ 行為者は通常の場合あるいは到着点と異なり、有情者の場合もある。具体的には、以下の

XガY(モノ)ヲ(Z<=X自身/自体)ニ)Vスル (能動)
 →YガX(=Z)ニ)Vサレル (受動)

これと似た現象について指摘した先行研究として、栗原(2005)があげられる。しかし、本稿は栗原(2005)と異なる考え方を提唱する。

栗原(2005)は受動文の中に非情物主語でありながら、対応する能動文のガ格項をニで表す特殊な一群が存在することを指摘し、この受動文を「定位のための非情物主語ニ受身文」と称し、類型化している。さらにこの種の受動文を作る動詞を四種類に分類し、次の四例に代表させる。現れる類：「オーストラリアで見られる全ての景色が、この島に凝縮されています」、含む類：「ポリフェノールは、お茶類に含有されています」、受ける類：「昔ながらの飛騨の風景が、白川郷に受け継がれています」、用いる類：「遺伝子組み替え大豆がこの豆腐に使用されています」。「定位」表現のニ受身文は、ガ格項がニ格項の位置においてどのような状態で存在するかを述べる表現であり、ニ格項を行為者と認めない⁸と主張している。

本稿はこの種の非情物主格・行為者ニ標示の受動文について、ニ格の行為者性を認める。対応する能動文は「XガY(モノ)ヲ(Z<=X自身/自体)ニ)Vスル」であるため、ニ格項は行為者ニ格であると同時に、場所ニ格の役割も兼ねていると考える。

例(8)に出現した「引き寄せる」と似ている用例として、「引き付ける」「吸い寄せる」「吸い上げる」等があげられる。これらの動詞は栗原(2005)の言う「現れる類・含む類・受ける類・用いる類」のどれにも属していないが、

ような例がある。YがXの一部あるいは所有に帰するという再帰性が、この型の受動文の特徴といえる。

- (A) さて、家康の父広忠は、家康が奪還される以前、家臣によって暗殺されており、その本城の岡崎城も今川氏に接收されていた。(『武将と名僧』)
 (B) 銀座の主なビル、松屋をはじめ、服部時計店、マツダビル(現阪急ビル)など、焼け残った大きなビルは全部米軍に接收されていたんですね。(『銀座上々』)

⁸栗原(2005: 188 - 189)は「受身文の「定位」用法におけるニ格項は、たとえ「ヒト」「組織」であっても、動作主として表現されているわけではない。」と述べている。しかし、下記のような用例に関して、検討する余地がある。

- (A) 「顕密なる語は史料に見える言葉である点がすぐれており、また黒田に先立って圭室諦成も用いているし、黒田以後はすでに多くの研究者に用いられている。(『文化史の構想』)

栗原(2005: 185)では用いる類はテイル形で「用いている」という結果状態の意味を表す場合に限り「定位のための非情物主語ニ受身文」を作るとしているが、上記の例(A)については、「多くの研究者」を行為者と認めるべきだろう。

ニ格項が到着点をあらわす性格が鮮明である。

現代日本語書き言葉均衡コーパスにおいて、主節にあらわれる行為者ニ格かつ場所・到着点ニ格の用例数は432例にのぼる。受動動詞を出現頻度の降順に並べれば、以下ようになる。括弧内は出現頻度である。

包む(200), 引き継ぐ(33), 反映する(28), 受け継ぐ(27), 吸い込む(20), 吸収する(16), 受け入れる(15), 呑み込む(11), 閉ざす(10), 継承する(9), 握る(6), 合併する(4), 呑む(3), 取り込む(3), 統合する(3), 吸い寄せる(3), 引きつける(3), 接収する(3), 吸い上げる(2), 併合する(2), 表現する(2), 引き寄せる(2), 包み込む(2), 示す(2), 吸収合併する(2), 取り上げる(2), 巻き上げる(1), 刷り込む(1), 受容する(1), 保有する(1), 包含する(1), 包括する(1), 含む(1), 封じる(1), 引き取る(1), 閉ざし始める(1), 統括する(1), 創設する(1), 吸う(1), 吸い取る(1), 表象する(1), 映し出す(1), 引用する(1), 置換する(1), はさみこむ(1).

上記の用例においては、行為者ニ格と場所・到着点ニ格の指示対象が同一であり、通常、姿を二回表さない。ニ格で標示される場合は両方の意味をあらわすことが可能であるのに対して、ニヨッテで標示される場合は場所や到着点という意味を表現することができなくなる。これはこのタイプの非情物主格・行為者ニ標示の受動文の多発と直接つながっていると考えられる。

最も出現頻度の高い「包む」を見れば、行為者ニ標示の用例は主節だけでも200例あるのに対して、行為者ニヨッテ標示の用例は主節と従属節あわせて4例しかない。下記の例(9)は場所という読みはできない。

- (9) 車を借りて海に近い道をドライブしていると、急に周りが霧によつて包まれることがある。(『イギリス衰亡しない伝統国家』)

主節における行為者ニ格と場所・到着点ニ格を兼ねるタイプの非情物主語・行為者ニ標示の受動文の成立は潜在的受影者の存在を要求していない。行為者項は場所や到着点などの役割を兼ねているため、ニ格の出現が求められる。したがって、文全体が非情物主格・行為者ニ標示の受動文というかたちになる。

5. 純粋な行為者ニ標示の受動文

ここから、上記の行為者ニ格と場所・到着点ニ格を兼ねるタイプの非情物主語・行為者ニ標示の受動文を取り除いて、純粋な行為者標示として用いられたニ格(受動ニ格)の例を見ていく。コーパス上の非情物主格・行為者ニ標示受動文の動詞を大まかに分類すると、次の三種類になる。

- 第一類, 対象に状態変化を必ず引き起こす動作を表す動詞(以下は工藤(1995)の用語を借りて「主体動作・客体変化動詞」と称する)⁹;
- 第二類, 対象に物理的な力は加えるが, 対象の状態変化を必ずしも引き起こさないという動作を表す動詞(以下は工藤(1995)の用語を借りて「主体動作・客体接触動詞」及び「主体動作・客体動き動詞」と称する);
- 第三類, 対象に物理的な力を加えない動作を表す動詞 (工藤(1995)の言う「人の認識活動・言語活動・表現活動動詞」, 「思考動詞」及び「感情動詞」にあたる)。

受動態動詞の種類によって、行為者ニ標示か、行為者ニヨッテ標示かは概ね決まっている。第一類の主体動作・客体変化動詞が受動態となる場合、行為者ニヨッテ標示が一般的である(街は敵軍 {#に/○によって} 破壊された。)。第二類の主体動作・客体接触動詞及び主体動作・客体動き動詞が受動態である場合、「(モノ) が(ヒト/モノ)によって 押された/叩かれた/蹴られた/…」のような例は非常に少ない。ただし、「ボタンが何者か {#に/○によって} 押された。」「壁が暴徒 {#に/○によって} 蹴られた。」のような作例は可能である。第三類の対象に物理的な力を加えない動作を表す動詞について、非情物主格受動文の行為者標示は基本的にニであり、コーパスにおいて、第三類動詞は受動文の行為者ニヨッテ標示の例はほとんど見当たらなかった。

なお、本稿は行為者を広く取る立場である。行為者項には段階性があると考えて、有情行為者は典型的・プロトタイプ的な行為者であり、行為者性が強い。非情行為者は非典型的・周辺的なものであり、行為者性も低くなる。主節における非情物主格・行為者ニ標示受動文の中に、行為者が有情者である例は 209 例あるのに対し、行為者が非情物である例は 515 例にのぼる。以下では行為者が有情者か非情物かにわけて検討する。

⁹ 4 節の動詞は実は「主体動作・客体変化動詞」のうち、再帰性のある特殊な一部である。本稿でいう 5 節第一類の動詞は 4 節の動詞を取り除いた「主体動作・客体変化動詞」であり、再帰性がない。そのため、挙例には意味に近い動詞が多いが、同一の語がない。

5.1 非情物主格・有情行為者ニ標示の受動文：「潜在受影者」の再検討

まず「有情者」の範囲を限定しておきたい。典型的な有情者として、人や動物があげられるが、本稿では国・政府機関・会社などの組織も有情者として扱う。

コーパス上の実例を受動態動詞の種類に基づいて分類すると、以下のようになる。括弧内は出現数をあらわす。

第一類、「主体動作・客体変化動詞」：

支配する(7), 利用する(7), 占める(4), 支える(4), 用いる(3), 独占する(3), 共有する(3), 乗っ取る(2), 食べる(2), 占領する(2), 左右する(2), 採用する(2), 食う(2), 牛耳る(2), 活用する(2), 買い取る(2), 奪う(2), ハイジャックする(2), 伐る(1), 劫掠し尽くす(1), 一蹴する(1), 略奪する(1), 掌握する(1), ゆがめる(1), やりとりする(1), 持ち帰る(1), 導く(1), 包囲する(1), 分解する(1), 塞ぎ直す(1), 封じ込む(1), 率いる(1), 取る(1), 取り憑く(1), 捕える(1), 継ぐ(1), 使う(1), 相続する(1), 占拠する(1), 制止する(1), 素っぱ抜く(1), コピーする(1), 食い荒らす(1), 急襲する(1), 規制する(1), シンボライズする(1), 囁る(1), 囲む(1), 買い求める(1), 買い上げる(1), 抑える(1), 追い詰める(1), 埋め尽くす(1), 受け切る(1), 荒らす(1).

第二類、「主体動作・客体接触動詞」及び「主体動作・客体動き動詞」
引く(2).

第三類、「人の認識活動・言語活動・表現活動動詞」, 「思考動詞」及び「感情動詞」

親しむ(14), 支持する(14), 知る(13), 喜ぶ(7), 愛する(8), 読む(4), 認める(4), 認知する(3), 認識する(3), 愛用する(3), 理解する(2), 見る(2), 狙う(2), 注目する(2), 信じる(2), 好む(2), 歓迎する(2), 覚える(2), 飽きる(2), 愛読する(2), 喜び迎える(1), 呼ぶ(1), 無視する(1), 見つめる(1), 楽しむ(1), 崇拝する(1), 推奨する(1), 承認する(1), 称する(1), 重視する(1), 察知する(1), 拒む(1), 購読する(1), 決める(1), 愛唱する(1), 愛好する(1), 珍重する(1), 歌う(1), 唄う(1), 聴く(1), 渴望する(1), 解読する(1), 重んじる(1).

第一類の動詞が受動態となる場合は行為者ニヨッテ標示が一般的のように見えるが、行為者ニ標示となることもしばしばある。行為者ニ標示が許

容されるのは潜在受影者が存在していることによると考えられる。

- (10) 町と、荷を満載した大型ポルトガル船が係留されている波止場が、海賊一味に劫掠し尽くされた。(『海賊の世界史』)
- (11) 歴史を学ぶなら、今、生きている人たちに活かさなくて、何のための歴史でしょう。時として歴史は支配者たちにゆがめられてきました。たくさんの本が燃やされたり、支配された人々の歴史をなくしてしまったりと、都合のいい歴史が残ってきました。(『ひとが否定されないルール』)
- (12) 東京のもっとも魅力ある繁華街の雰囲気は、外資に勤める高所得層に支えられている。サービス経済化とグローバル化が新しい東京をつくっているといえる。(『「町おこし」の経済学』)

例(10)は「町と波止場が海賊一味に劫掠し尽くされた」となり、町の住民や波止場にある荷の持ち主、その荷の運送に携わっている人など、皆潜在受影者となりうる。つまり、明確な持主が潜在受動者になれるのはもちろんのこと、非情物と直接の関係をもつ人(広義の所有者)は潜在受影者になりうるのである。

このように、非情物の広義の所有者が想定される場合は、広義所有者が潜在受影者となり、行為者ニ標示をとるほうが自然である。持主を主題にすれば、「太郎は財布が泥棒に盗まれた」のような顕在受影者になる。広義所有者が想定されず、かつ行為者がニで標示される場合の潜在受影者は、話者自身であると本稿は主張する。話者が当該の行為によって何らかの心理的影響(多くはマイナス(例 11)だが、まれにプラス(例 12)もある)を受けた場合、行為者ニ標示になり、心理的影響を受けなかった、または受けたことを表したくない場合は、客観的表現である行為者ニヨッテ標示になる。例(11)と(13)、例(12)と(14)から、この対立が読み取れる。

- (13) アリーのさいしょの墓は外国からの侵入者によって略奪された。(『イラク』)
- (14) 東西南北に碁盤の目のように広がる道路で区切られた平城京は、全国各地から運ばれてくる品物や、それらを運んでくる人々で、はなやかににぎわいました。こうした平城京のにぎわいは、地方の人々

によって支えられていました。(『新編 新しい社会 6上』)

ここで武田(2014)に取り上げられた「バーミヤンの石仏がタリバンに破壊された。」という例について考えたい。バーミヤンの石仏は誰かのものではないため、持主が特定されない。そして、バーミヤンの石仏と直接の関係をもつ広義の所有者もまた想定しにくい。ここであえて行為者ニ標示が選択されたのは、話者がバーミヤンの石仏が破壊されたことを悪いことと思ひ、話者自身が影響を受けるからである。話者がそれを悪いこととも良いこととも思わなければ、客観的にこの事象を述べる時は行為者ニヨッテ標示が選択される。

第二類に属する動詞が非情物主格・有情行為者ニ標示の受動文を構成することは非常に少ない。「荷車は、金の玉房と白い羽根を付けた三頭の馬に引かれていた。(『パリ職業づくし』)」と「馬車は、金の玉房と赤い羽根飾りを付けた三頭の馬に引かれていた。(『パリ職業づくし』)」の2例のみだったため、ここで議論しないことにする。

第三類の動詞は受動文に用いられる場合、行為者ニ標示がデフォルトであり、行為者ニヨッテ標示が排除されている。「支持する」という動詞が受動文に表れる場合は、まれに行為者ニヨッテ標示も可能¹⁰であるが、それは話者が第一類動詞的な意味に解釈し、かつ客観的な言い方をしようとしたことによると見られる。

以上のように、非情物主格・有情行為者ニ標示の受動文において、非情物の持主を含む広義の所有者が想定される場合は、広義所有者が潜在受影者となることを確認し、それが想定できない場合に話者自身が潜在受影者となる可能性について検討した。その結果、話者自身が潜在受影者になりえると認められた。ここでもう一度、「属性叙述受動文に受影性を認めるか否か」という問いに立ち戻る必要がある。

5.2 属性叙述受動文：名詞の指示特性と話者の視点

属性叙述受動文の定義について、益岡(1987:188)では「所与の対象の属性を叙述することをめざして、ガ格以外の名詞句をガ格(主題)に昇格させる受動文」を属性叙述受動文と呼んでいる。その後、和栗(2005)は属性叙述受

¹⁰行為者ニヨッテ標示の用例：

それゆえ、反革命肅清は革命に参加したすべての人々によって支持されたのである。(『中国革命への挽歌』)

動文を再定義し、益岡(1987)の定義をベースに、さらに「主語に立つモノに対する受影性が認められない」という条件を付け加えている。和栗(2005 : 167)は「主語の属性を叙述する受動文」は数多いが、その中で受影性とは無関係なケースはごく稀にしか存在しない」と指摘し、属性叙述受動文を<選択系>と<評価系>の二種類に絞っている。

本稿は属性叙述受動文の本質を観察可能時が特定ではない点にあると考えている。受動文の属性叙述というのは出来事が反復／習慣であり、一回限りではない。行為者も概ね非特定である。そして、本稿は受影性と無関係なケースはごく稀にしか存在しないという指摘に同意する立場である。ただし、受影性と無関係とされる非情物主格・有情物行為者ニ標示の属性叙述受動文の成立にあたって、共感度の階層が有効であると考えている。下の例を見られたい。

- (15) この山道は、江戸時代、京へ氷を運ぶ飛脚に利用されていた。 (和栗(2005 : 164))
- (16) 三上山は、手頃なハイキングコースとして多くの市民に親しまれている。 (和栗(2005 : 164))
- (17) この諺は、結婚式で祝辞を述べる人によく引用される。 (和栗(2005 : 165))
- (18) 納豆は、産地によって粒の大きさが違うんです。そして水戸納豆は小粒で、それが人々に好まれたようですよ。(『江戸売り声百景』)
- (19) シヴァギリと呼ばれるこのピラミッド形の山は、太古の昔から人々に崇拜されてきた。(『ムー』2003年12月号)
- (20) 国立感染症研究所、エイズ予防情報ネット、難病情報センター等が開設するホームページは、専門領域の知識に関するデータベースとして、地域保健従事者に活用されている。(『地域保健を支える人材の育成』)

例(15) - (17)は和栗(2005)の用例を引用したもの、例(18) - (20)はコーパス上の用例である。これらの受影性と無関係な属性叙述受動文において、非情物主格の指示特性は特定であり、有情行為者は非特定である。非情の主格名詞はそれぞれ「この山道」「三上山」「この諺」「水戸納豆」「シヴァギリと呼ばれるこのピラミッド形の山」「国立感染症研究所、エイズ予防情報ネット、難病情報センター等が開設するホームページ」であり、指示特性

から見れば、いずれも特定指示¹¹となる。それに対して、行為者の「京へ氷を運ぶ飛脚」は非特定の飛脚であり、「多くの市民」「祝辞を述べる人」「人々」や「地域保健従事者」も非特定指示¹²である。このような「特定指示の非情物主格＋非特定指示の有情行為者」という組み合わせは目立つ。

Kuno(1987:180)の Reflexives as Empathy Expressions という一節では下のよ
うな序列を挙げている。

Anaphoricity Hierarchy: We assume the following hierarchy regarding the relative degrees of anaphoricity:

First-person pronoun > Other definite NPs > Indefinite NPs > Indefinite pronouns (someone, anyone, etc.)

The reflexives are better when their antecedents are higher in the Anaphoricity Hierarchy than any other NPs in the same sentence.

Kuno(1987)では共感度階層と名詞の指示特性との関係が論じられており、名詞が定か不定か、つまり指示する対象を聞き手が知っているか否かが問題となっている。これはもちろん重要な指摘であるが、話者の立場から見ると、名詞句の指示特性が特定か非特定かもまた重要であると考えられる。

例(15) - (20)にみられる「特定指示の非情物主格＋非特定指示の有情行為者」という組み合わせはよく知っている物のほうに視点を寄せやすい、言いかえれば、特定指示に対して話者の共感度が高いということの現われと考えられる。奥津(1983)と Kuno(1990)で指摘される行為者が不特定多数の場合は非特定指示であり、話者は通常、特定指示の非情物主格寄りの視点を取る。

一方、下記の例(21)(22)のような、一見「特定指示」ではない非情物主格の存在も無視できない。

- (21) 茶系飲料は年齢性別に関わらず多くの人に選ばれているということが分かった。(和栗(2005:169))
- (22) 最近では、環境面での問題が再びクローズアップされる一方、車で出かけるアウトドア型のレジャーが広がった。その結果、燃費、室内

¹¹名詞句が指示する対象を話者が知っている場合、特定指示となる。特定指示は「或る N」「1つの N」「いくらかの N」などにより特徴づけられる。

¹²名詞句が指示する対象を話者が知らない場合、非特定指示となる。非特定指示の名詞句は、文が確言でない(事実を述べない)場合、あるいは、指示対象が原因となった結果のみが認められる場合などに現れる。非特定指示は「誰か」「何か」「どこかの N」などにより特徴づける。

空間、荷物スペースなどが消費者に重視されるようになった。(『企業家の条件』)

例(21)では主格の「茶系飲料」は類であり、総称と見なすことができる。しかし、総称と言っても、ここでは「どの茶系飲料も」という表現に置き換えられない。「茶系飲料」は「コーヒー」や「ジュース」等、ほかの飲料と対立をなしているため、一種の特定指示と見て良いと思われる。同様に、例(22)の主格「燃費、室内空間、荷物スペースなど」には「など」という表現が含まれ、話者が指示対象をすべて把握できていると断言できないが、表に出ていない「車の外観」や「安全性」といった要素と対立をなしているだろう。

属性叙述受動文においては、出来事が非特定であり、基本的に行為者も非特定である。非特定指示の行為者と比べて、特定指示の主格に話者の視点が寄せやすい。つまり、共感度の階層が有効である。

5.3 非情物主格・非情行為者二標示の受動文

奥津(1983: 77)は古典日本語の受動文を対象に議論を展開し、自然力を表わす名詞を補語とする非情の受身が古語では好まれた表現であると指摘し、「<動作主>も<受動者>もこの場合無生名詞だから、受身文はつくりやすいはずである」と述べている。今回集めたデータを見ると、非情物主格・非情物行為者二標示の受動文の数は有情行為者二標示の受動文の2倍である。これは、行為者も受動者も非情物の場合、受動文がつくりやすいという説と一致する。主格と行為者はどちらも非情物(モノやコト)であり、対等なため、話者がその視点を寄せたいほうに寄せれば良い。

コーパス上の実例を受動動詞の種類に基づいて見ていく。

第一類、「主体動作・客体変化動詞」:

覆う(97), 支える(41), 囲む(33), 左右する(30), 見舞う(25), 支配する(21), かき消す(21), 影響する(13), 照らす(11), 彩る(10), 吹き飛ばす(9), 代表する(9), 象徴する(8), 襲う(7), 押しつぶす(7), 遮る(6), 規定する(6), 洗う(6), 貫く(5), 痛めつける(5), 翻弄する(4), 挟む(4), 流す(4), 取り囲む(4), 照らし出す(4), 占める(4), 裏打ちする(4), 満たす(3), 守る(3), 塞ぐ(3), 引き裂く(3), 代替する(3), 占領する(3), 制約する(3), 縛る(3), からめとる(3), 裏づける(3), 覆い尽くす(3), 引きずる(2), 同化する(2), 中断する(2), 妨げる(2), 消す(2), 汚染する(2), 冒す(2), 縁

取る(2), 擁蔽する(1), 荘厳する(1), 穿つ(1), 射抜く(1), 撃墜する(1), ラッピングする(1), 装う(1), 焼く(1), 蝕む(1), 導く(1), 保障する(1), 保護する(1), ほぐす(1), 包囲する(1), 踏み固める(1), 吹き流す(1), 吹き散らす(1), 吹きさらす(1), 阻む(1), 挟みつける(1), 呑む(1), なぶる(1), なぎ払う(1), 特色づける(1), 摘み取る(1), 突き破る(1), 断つ(1), 染める(1), 占拠する(1), 征服する(1), 浸食する(1), 差し押さえる(1), 裂く(1), 殺す(1), コントロールする(1), 構造づける(1), 曇らす(1), 駆逐する(1), 食う(1), 基礎づける(1), 規制する(1), 飾る(1), かき乱す(1), 折る(1), 押し倒す(1), 押し切る(1), 押さえる(1), 裏書きする(1), 埋める(1), 埋め尽くす(1), 奪う(1), 打ちのめす(1), 受けとめる(1), 圧倒する(1).

第二类, 「主体動作・客体接触動詞」及び「主体動作・客体動き動詞」

打つ(4), 吹く(2), 管理する(1), 揉む(1).

第三類, 「人の認識活動・言語活動・表現活動動詞」, 「思考動詞」及び「感情動詞」

認識する(3), 珍重する(1), 発見する(1), 好む(1).

以上からわかるように, 非情物主語・非情物行為者ニ標示の受動文の動詞には主体動作・客体変化動詞が圧倒的に多い。第三類に関して, もともと人が行為者として働くべきだが, 実際の用例では擬人的な使い方として, 非情物が行為者の位置に立っている¹³。

行為者ニヨッテ標示がデフォルトである主体動作・客体変化動詞だけ見ると, 同一の受動態で類似した文脈に置かれていても, 行為者のニ標示とニヨッテ標示に選択の余地のある例が数多く存在する。例(23) - (26)は行為者ニ標示であるが, 例(27) - (30)は行為者ニヨッテ標示である。

(23) 松陰の行動倫理は, 誠の一字につらぬかれている。 (『倫理』)

(24) 経団連の調査では三千項目にわたる緩和対象の規制が示されたが, 規制の数はどのレベルで一つと数えるかによって変わるし, 個々の規制を緩和するよりは総体として, システムを丸ごと取り替えるほ

¹³具体例:

1) 記録型DVDドライブがパソコンに認識されます。 記録型DVDドライブがきちんと認識されたかどうかをWindowsのデバイスマネージャー等で確認します。

2) かねてから大西洋の通商破壊戦に出撃することを恐れられていた戦艦ビスマルクは, 重巡プリンツ・オイゲンを伴って航行中に, スウェーデン海軍の巡洋艦に発見された。

- うが合理的だという議論もあり、一概に規制緩和項目を数で議論することはできない。政府案は先行する経団連や大和総研等の提案に影響された。（『民優論：真に国民に優しいシステムとは何か？』）
- (25) 駐車禁止の表示がないので、これではせつかくの天然記念物も排気ガスに痛めつけられてしまう。（『人間の証明』）
- (26) このことは、ジャマイカの黒人コミュニティの中にも toasting などの言葉遊びが存在していることに裏づけられる。（『地球村の思想』）
- (27) それに比べて、三浦綾子の自伝小説は、繰り返すが徹底して自己批評の精神によって貫かれている。（『三浦綾子論』）
- (28) その結果、企業の経済活動は法人税によって影響されない。（『財政学』）
- (29) そして、組織は活性酸素によって痛めつけられます。（『できる男は超少食』）
- (30) その理論は、千九百八十三年になってついに、CERNが発見した二種類の新しい素粒子によって裏づけられた。（『宇宙が始まる時』）

非情物主格受動文の行為者ニ標示と行為者ニヨッテ標示の両方が可能な場合、行為者標示の選択を左右するのは話者自身であると考えられる。すなわち、話者自身が当該事態をどのように受け取っているかによって、行為者ニ標示になったり、行為者ニヨッテ標示になったりする。話者が当該事態によって何らかの心理的影響を受け、話者自身が潜在受影者となる場合は、行為者ニ標示が選ばれる。他方、話者が何の心理的影響も受けていなくて、事態を良いとも悪いとも思わず、ただ客観的な言い方をしようとする場合は行為者ニヨッテ標示となる。

5.4 叙景文：話者の関与度

金水(1991: 4) は、「平安時代の仮名散文の非情の受身は、知覚された状況を描写する場面で用いられる場合が多い」と指摘したうえで、このような文類型を「叙景文」と名付け、叙景文の特徴を「限定された時空に存在する、ものの『現れ』を写し取るというところにある。受動文の新主語は時空を越えた『個体』や『種』の総体として表現されているのではない」と

まとめている。尾上(2003)はこの種の用法を「発生状況描写用法」と称し、川村(2012)は「発生状況描写タイプ」と呼んでいる。

本稿では金水(1991)の言い方を借りて、この種の受影性と関係のない非情物主格・非情物行為者ニ標示受動文を叙景文と呼ぶ。叙景文の主格位置に来る非情物は話者の関心の寄せどころである。言いかえれば、行為者に比べて、非情物主格のほうに話者の視点が寄せられており、共感度の階層において上位を占めている。

- (31) だが、この雪は風が熄めば絶える。真上の空から降るのではなく、山々に降る雪が風に吹きながされてくるのである。 (『真田太平記』)
- (32) 二方の壁は、ほんとうの自然の光と緑、そして屋根の煉瓦色に彩られている。 (『フィレンツェ・ミステリーガイド』)
- (33) 雷鳴が天を揺るがせた。勇ましく攻め太鼓を打つ秀郷兵の、撥が止まった。坂東平野を覆う天空が、太い稲妻に引き裂かれる。 (『平将門』)

6. おわりに

非情物主格・行為者ニ標示受動文については、これまで作例や、少数の実例に基づいて論じられてきた。本稿はコーパス上の実例を集め、いわゆる潜在受影者の存在という説明について再度議論を行った。

非情物主格・行為者ニ標示受動文には、A.行為者ニ格と場所・到着点ニ格を兼ねるタイプと B. 純粋な行為者ニ標示タイプがある。

A タイプ：

X ガ Y (モノ) ヲ (Z (=X 自身/自体) ニ) V スル→Y ガ X (=Z) ニ V サレル

B タイプ：

X ガ Y (モノ) ヲ (/ニ) V スル→Y (モノ) ガ X ニ V サレル

A タイプにおいて、行為者ニ標示が許容されるのは場所や到着点といったニ格の意味が含まれていることによる。B タイプについて、行為者ニ標示が成立するのは潜在受影者の存在と関連する。広義の所有者が潜在受影者となりうるほか、話者自身が当該事態によって何らかの心理的影響を受ける場合、話者自身も潜在受影者となる。いわゆる属性叙述受動文と叙景文の場合は、話者が物理的あるいは心理的影響を受けないが、視点の寄せ方に関して、共感度の階層が有効である。

再帰的なニ格行為者(A タイプ)は、受動文の主格への共感度が高い場合の行

為者(Bタイプ)とは異なる理由でニ格をとっている(場所・到着点)。「ニ」を別の語ととらえてもよい(「建物が占領軍にニ接收された」／「(我々の)建物が敵に破壊された」)。

参考文献

- 天野みどり(2001)「無生物主語のニ受動文——意味的關係の想定が必要な文」『国語学』第52巻2号, pp. 1-15.
- 奥津敬一郎(1983)「何故受身か?——<視点>からのケース・スタディー」『国語学』132集, pp. 65-80.
- 尾上圭介(2003)「ラレル文の多義性と主語」『月刊言語』32巻4号, pp. 34-41.
- 川村 大(2012)『ラル形述語文の研究』くろしお出版.
- 金水 敏(1991)「受動文の歴史についての一考察」『国語学』164集, pp. 1-14, 武蔵野書院.
- 金水 敏(1993)「受動文の固有・非固有性について」『近代語研究 第九集』武蔵野書院.
- 工藤真由美(1990)「現代日本語の受動文」『ことばの科学4』むぎ書房.
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト——現代日本語の時間の表現』ひつじ書房.
- 久野 暉(1978)『談話の文法』大修館書店.
- 久野 暉(1986)「受身文の意味——黒田説の再批判」『日本語学』5巻2号, pp. 70-87.
- 栗原由加(2005)「定位のための受身表現——非情物主語のニ受身文の一類型——」『日本語文法』5巻2号, pp. 180-195.
- 砂川有里子(1984)「<に受身文>と<によって受身文>」『日本語学』3巻7号, 明治書院.
- 武田素子(2014)「「潜在的受影者」説の精密化」『日本語文法』14巻1号, pp. 105-113.
- 坪井栄治郎(2002)「受影性と受身」(西村義樹編『シリーズ言語科学2 認知言語学I: 事象構造』).
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版.
- 福田嘉一郎(2012)「現代日本語の主題に現れうる名詞句についての覚書」『神

戸外大論叢』第 63 卷第 2 号[英米/総合文化] pp. 163-167.

益岡隆志(1982)「日本語受動文の意味分析」『言語研究』第 82 号, pp. 48-64.

益岡隆志(1987)『命題の文法——日本語文法序説』くろしお出版.

益岡隆志(1991)「受動表現と主観性」仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』pp. 105-121, くろしお出版.

和栗夏海(2005)「属性叙述受動文の本質」『日本語文法』5 卷 2 号, pp. 161-179.

Kuno, Susumu(1987) *Functional syntax-Anaphora, Discourse and Empathy*. Chicago: University of Chicago Press.

Kuno, Susumu(1990) Passivization and Thematization. In Osamu Kamada & Wesley M. Jacobsen (eds.), *On Japanese and How to Teach It*. pp.43-66. Tokyo: The Japan Times.

Kuno, Susumu(2004) Empathy and Direct Discourse Perspectives. In Laurence R. Horn & Gregory Ward (eds.), *The Handbook of Pragmatics*. pp.315-343. Blackwell Publishing.

非情物主格・行為者二標示受動文について ——コーパス上の実例に基づく一考察——

李 藝

要旨

本稿では、現代日本語における非情物主格・行為者二標示の受動文を観察し、その成立条件を検討する。行為者を有情者と非情物に分けて分析した結果、非情物主格・有情行為者二標示の受動文には、潜在受影者が存在するタイプ（受影受動文）と存在しないタイプ（属性叙述受動文）とがあることが再確認できた。そのうえでまず、受影受動文について話者自身も潜在受影者になりうると主張する。次に、属性叙述受動文について主格・二格名詞の指示特性には一定の傾向がみられ、話者の視点が非情物主格に関与していることを示す。さらに、非情物主格・非情物行為者二標示の受動文は多くの場合、話者自身が潜在受影者であることを指摘する。

Keyword(s)：非情物主格、行為者、受動文、潜在受影者、話者